

## 朝鮮労働党第8回大会の内容と成果

マッテオ・カルボネリ

ヨーロッパ・チュチェ思想研究学会書記長

2021年1月5日から12日までピョンヤンで開催された朝鮮労働党第8回大会は、朝鮮人民が社会主義と自主の道をさらに確固と進めるようにするだけでなく、世界の革命的な人民を鼓舞し、チュチェ思想の研究を深め、その適用の指針を得られるようチュチェ思想研究者を力づけるうえで、大きな成果をおさめました。

人間・民族・国家の自主性を中心に据えたチュチェ思想の原理は、社会正義はもとより、朝鮮労働党のすべての活動を高揚させる基盤となる原理であると言えます。この原理にもとづいて、朝鮮労働党は、朝鮮人民の前衛として人民中心の社会主義制度を築きながら、国家の自主権を守り、経済建設をおしすすめるたたかいを導いています。朝鮮労働党と人民大衆との団結は、社会主義体制の強化を図り、社会のすべての構成員が主人としての役割を果たせるようにしています。

朝鮮労働党第8回大会には、各界から約5000名の代表が参加し、その数は、前回2016年に開催された第7回大会の2倍以上でした。その一方で他の国々、とりわけ帝国主義諸国はコロナ禍に見舞われていました。同諸国では依然としてすべての政治的行事が取りやめになり、オンラインを使つてのイベントだけが開催されるという、封鎖状態がつづいていました。

コロナ禍により、これらの諸国ではまた、分裂や新自由主義のゆがみや不平等が増長され、失業率が激増し、不平等や排他主義、崩壊前夜の社会の矛盾が浮彫りになりました。朝鮮においては、社会制度においてこのような社会的な歪みはなく、大規模な代表者の参加のもとに朝鮮労働党第8回大会が開催されました。これは、朝鮮では、コロナ禍を撲滅するための決定的な措置が講じられたおかげでした。朝鮮は、2020年秋に洪水や台風などに見舞われたにもかかわらず、また、帝国主義国により過酷な経済制裁が実施されているなかにあつても、このような大会が開催されたことは特筆すべきことです。

金正恩総書記がおこなった包括的な活動報告にもとづいて、第8回党大会は、統一と団結の精神で朝鮮革命の新たな道を指し示す、「活動する大会、闘争する大会、前進する大会」として開催されました。これは、同時期に全世界の人々が目撃したワシントンの米国議会でおきた、暴力と混乱、民主主義のいかなる精神をも否定し、あざ笑うできごととは、究極の対比をなすものでした。

帝国主義者と反動勢力は、朝鮮労働党第8回大会に「改革」と「開放」を期待し、「政治的变化のきざし」が見えたと声高に叫びました。しかし、朝鮮労働党が革命的原則を堅持し、修正主義や日和見主義に反対し、自主路線を貫き、大国に従属することに反対していることは、周知の事実です。

このことは、東欧諸国の社会主義が修正主義者、日和見主義者の裏切りのな「改革」によって崩壊した後、朝鮮労働党が1992年に、「社会主義偉業を固守し前進させよう!」のスローガンをかけて、世界の共産主義党と労働者党の国際会議を招集し、平壤宣言を推進した際にも証明されました。

また、1994年に、金日成主席が逝去された後、資本主義、帝国主義勢力が、朝鮮の崩壊を願い、あるいは社会主義の終焉につながる「改革」を受け入れることを期待したとき、金正日総書記は、「わたしからいかなる変化をも期待するな」と宣言し、朝鮮人民と世界の進歩的人民にたいして、赤旗を高くかかげよう呼びかけました。

同様にその後、朝鮮が帝国主義による経済封鎖や食糧不足や自然災害がつづくなど、折り重なる困難に直面したときに、もし朝鮮が社会主義を捨てて資本主義に戻るならば、多大な援助を約束するという帝国主義者やその回し者にたいして、金正日総書記は、「われわれは、チュチェ思想の旗じるしのもとに強盛大国を建設していくであろう。われわれは決して帝国主義者が提案し、国を破滅させる『改革や開放』に惑わされないだろう」と述べました。

このような状況のなかで、朝鮮労働党第8回大会は、再度、人民の幸福のための経済の指導における国家の指導的役割を強化する必要性を強調しました。そして、市場経済思想の浸透に反対する強固な立場を再確認しました。より一般的には、民族文化を破壊し、支配主義者による「世界文化」に置き換える、グローバル化の脅威から社会主義と自主を固守するために、帝国主義的文化の浸透に反対する強固な立場を再確認しました。

これまでの重要な問題への対処から教訓を得て、第8回党大会は、政治的観点から党が経済管理問題を扱っていくことを呼びかけました。

金正恩総書記はつぎのように述べています。

**「国家経済の自立性と計画性、人民性を強化するには、国家の経済組織者としての機能を高め、経済活動の結果が人民の福祉増進に振り向けられるようにする原則に立つて生産物に対する統一的な管理を実現すべきです」**

朝鮮労働党第8回大会では、党活動の目的と実際の活動を調整し、今後数年間の党活動の方向性を定めるために、この大会で採択された諸々のスローガンや合言葉のなかでも、もっとも主要なものが「以民为天」「一心団結」「自力更生」であると確認しました。

実際、「自力更生」は、チュチェ思想の中心に位置づけられ、帝国主義の経済制裁に起因する困難を克服してだけでなく、社会主義と自主を擁護し、人民の幸福を充実させていくうえで、必要不可欠な理念です。

朝鮮労働党は党創建以来、朝鮮革命の総参謀部として、人民大衆のなかに入り、朝鮮を植民地主義から解放し、帝国主義侵略勢力にたいする画期的勝利を収めるためのたたかいで朝鮮人民を導きました。そのたたかいは、「以民为天」「一心団結」「自力更生」の理念を朝鮮革命に適用し、自己の力にもとづいて、自己の実情に即してたたかいをおこなうというものでした。

このような朝鮮労働党の路線は、朝鮮は戦争の廃墟のなかから不死鳥のように即座に国を再建し、人民生活のすべての分野で壮大な成果を達成し、同時に、多くの試練や困難があるなかでも、経済発展において著しい成果をおさめ、かつ強力な自衛力によって国の自主性を固守することができました。これは、朝鮮労働党が、創立当初より、チュチェ思想にもとづき革命と建設の主人である人民大衆中心の党であったがゆえに、可能になりました。

このため、朝鮮労働党第8回大会は、朝鮮労働党が人民に依拠し、人民を信じ、人民の利益のために献身し、人民の運命に責任を負うと強調しました。そして最終的には、チュチェ思想を指導思想とする統一の精神をつねに維持し、チュチェ思想の原則が全社会に脈打ち、チュチェ思想の原則にもとづいて全社会を改造し、人民との混然一体化を実現することの必要性を強調しました。これは、人民との活動を優先し、課題を遂行す

るうえで人民の革命的熱意と創造性を全的に動員することを提唱した、青山里方法の実践です。

この流れから注意が喚起されなければならないのは、欠陥、官僚主義、権力乱用、不正に起因する失敗や腐敗をなくしていくことです。これらのことは、反党的、反国家的、反人民的行為同様に闘われなくてはなりません。

社会主義制度と国家の自主性を固守するために、朝鮮労働党には、帝国主義者のすべての狡猾な圧力と策動を粉碎していくことが求められています。帝国主義者は、朝鮮の政権を転覆しようと企んでいますし、武力で朝鮮を制圧しようと侵略の脅威をあおっています。

このような状況に対処するために、朝鮮労働党は、人民大衆第一主義をかかげ、南北朝鮮の協力と対話を提唱し、韓国に米韓合同軍事演習を中止することを求めつつも、軍事を優先し、朝鮮に強力な軍事力を備える先軍政治を追求していくでしょう。朝鮮と他の諸国における教訓からして核武力は、帝国主義の侵略から自国を防衛する抑止力となり、平和を保障していくでしょう。

このように、人民を歴史の主体とみなす、人民中心の思想、金日成・金正日主義によってさし示された道を歩みつづけることにより、朝鮮労働党は、人民の自主的要求ならびに生活水準を向上させながら主人として生きようとする要求を実現していくでしょう。

このような朝鮮史からみて、金正恩閣下が第8回党大会において朝鮮労働党総書記に推戴されたことは、すべての朝鮮人民と朝鮮労働党党員の敬意のあらわれであり、党の闘争綱領を実現するうえでの信頼の証しであり、きわめて意義深いことです。実際金正恩総書記は、白頭山から始まった路線と伝統を継承し、新たな活力をもってすでに、国の安全と人民の福利厚生のために、軍事抑止力建設と経済発展を同時に進める壮大な闘争の遂行において、重要な成果を達成しています。

金正恩総書記の指導のもと、朝鮮労働党第8回大会で決定されたように、金日成・金正日主義の原則を実践に正しく適用することにより、朝鮮人民は確信をもって、国の自主を強化し、社会主義を固守しながら、繁栄する社会を建設していくことでしょう。

朝鮮労働党第8回大会は、じつに、チュチェの社会を建設しようとするための力強い意志表示です。第8回党大会における決定の遂行において朝鮮人民が大きな成功をおさ

めることを願いつつ、わたしたち、チュチェ思想の研究者であるわたしたちは、は、世界の進歩的人民を鼓舞する国際主義の精神にのっとりながら、チュチェ思想を深く研究普及し、その原理を實踐に適用することへの励ましと力を得ています。